

# 組織情報

緊急特集第4弾

平成19年 6月12日  
JR東海ユニオン

第三次組織拡大月間シリーズ 緊急特集第4弾！

## 「松崎チルドレン」が牛耳る執行部 その実態は、「反戦青年委員会」？

海労は、今や完全に『松崎チルドレン』に牛耳られてしまったようだ。

その姿は、かつて旧JR東海労組青年婦人部が「反戦青年委員会」と揶揄されるまでに変質した過程に酷似している。同青婦部は発足当時こそ民主的な組織運営に努めたが、連中が執行部の枢要を占めるようになった結成3年目の時期になるとやおら本性を顕わにし、組織運営に大きな齟齬が生じてきた。

当時、JR総連は教祖松崎を頂点とするグループが主導権を握り、民主的な組織運営が大きく阻害されていた。こうした独善的なやり方に反発した各単組内民主化グループが蜂起し、現在のJR連合結成に至るわけだが、あくまでもJR総連に盲従し、その先兵となって民主派への攻撃を担ったのが、現在の海労『松崎チルドレン』グループであった。

JR総連が「戦争反対」と言えば、連中は独断で、先陣を切ってアメリカ大使館に抗議行動を起こし、一部マスコミから「過激派と同じ」「反戦青年委員会の再来」などと揶揄されていた。また教祖が「JR西日本、東海会社が悪い」と放言すれば、異口同音にその論陣を張っていた。教祖が「尿療法」を推奨すれば、無批判に盲従していた。既に『教祖絶対』主義は確立されていた...？

言うまでもなく民主的な労働組合にとって大切なのは『教祖』個人ではなく、「組合員と家族の幸せ」である。組合員に勝る主人公はいない。

**「教祖絶対」「組合員軽視」の組織にいて、良いのですか？  
「松崎チルドレン」と決別する決断の時は、今しかない！！**

～つづく～